



海岸ごみ 69%がプラ

県が2023年度に実施した海岸ごみ調査によると、人工ごみ全体の体積のうちプラスチックが69%に上り、このうち4分の3はペットボトルなど日頃の生活で出る陸域からの物だった。調査面積当たりの人工ごみの量は4年前から微増した。県は「ポイ捨てをしないなど、一人一人が適切な処理を意識することで、海のごみを減らす大きな効果が得られる」と呼びかけている。



おおいた

県によると▽和間海岸（宇佐市）▽松津漁港海岸（豊後高田市）▽守江港納屋地区（杵築市）▽下梶寄海水浴場（佐伯市）の4

地点で、海岸清掃活動の少ない10月と12月に計2回調査した。

プラスチックは飲料用のペットボトルやポリ袋など陸域由来の物が76%を占めた。漁具など海域由来の物は、カキ養殖で貝同士の間隔を空けるために使うパイプが



海岸に落ちていたペットボトルやパイプなどのプラスチックごみ。7月、佐伯市鶴見の下梶寄海水浴場

23年度調査 県「責任持って処理して」

調査1回当たり100平方メートルに平均40・9粒の人工ごみがあった。19年度に「県きれいな海岸づくり推進計画」の改定に伴い実施した調査では38・5粒で、6%増となった。

パイプは養殖の盛んな広島県などから流れ着いたと考えられ、同県が呼びかけや対策をしているという。

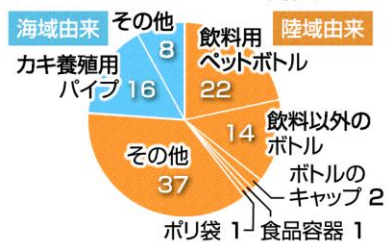
大分県循環社会推進課は「ペットボトルなど生活関連のごみついて「自分が使ったものは責任を持って処理してほしい」と話している。」

（牧里保子）

多かった。

プラ以外の人工ごみは▽木材（23%）▽空き缶など金属（4%）▽ゴム（2%）▽ガラス・陶器（1%）などがあつた。

プラスチックごみの内訳



※単位は%。小数点以下を四捨五入しているため合計は100%にならない



〔問①〕 プラごみのうちペットボトルやポリ袋など陸域由来の物は何%でしたか。

〔問②〕 ①のうち、飲料用ペットボトルは何%でしたか。

〔問③〕 漁具など海域由来の物では、特に何が多かったですか。

〔問④〕 ごみの量は4年前に比べ微増しています。ゼロにするためにはどうしたら良いと思いますか。考えよう。